

# 中之条町六合赤岩(群馬県)

## (1) 保存地区の概要

|       |            |
|-------|------------|
| 地区名   | 中之条町六合赤岩   |
| 種別    | 在郷町        |
| 面積    | 約63.0ヘクタール |
| 選定年月日 | 平成18年7月5日  |

**特徴** 六合赤岩伝統的建造物群保存地区は、中之条町六合地区の南端に位置している。屋敷地は緩やかな傾斜地に石垣を築き、前庭を中心に主屋、および蔵や小屋などの付属屋が配置されている。切妻造平入の総2階建が大半であり、正面端部を外壁より前に張り出させた「デバリ(出梁)」が特徴である。屋敷地の周囲には、丘陵地に石垣で造成された農地が広がり、その中に建てられた小規模な納屋や、山林と集落の境界上に点在する宗教施設、山林等の自然環境が伝統的建造物群と一体となった歴史的風致を良く伝えている。

**選定による果効** 当地区では、平成7年から町並み保存の事業に取り組みが行われており、平成18年7月の重要伝統的建造物群保存地区選定と相まって、官民一体となり地域の活性化に取り組んでいる。選定前後の来街者効果は落ち着きつつあるが、修理事業や電線類の地中化を進めると共に、案内所の運営やふれあい感謝祭の開催、地区内ガイドの育成などの住民の取り組みにより保存と活用が両立されている。

町では周辺の自然観光資源や歴史遺産と一体となった活用を模索し、周遊ルートの中核として保存整備に力を入れている。



## (2) 保存地区のあゆみ

|              |  |
|--------------|--|
| 平成7年度(1995)  | 群馬県農政部によって「失われつつある群馬の美しい農村景観の保全と振興を図る調査地域」に指定される             |
| 平成8年度(1996)  | 住民全員参加による「赤岩ふれあいの里委員会」が組織され、地区内の歴史・伝統・文化の活用や景観保全に向けた取り組みが始まる |
| 平成13年度(2001) | 赤岩ふれあいの里委員会と協同組合群馬建築修復活用センターにより、建築物等の独自調査(12～13年度)の報告会が開催される |
| 平成14年度(2002) | 住民による「赤岩伝統的建造物群検討委員会」が発足                                     |
| 平成15年度(2003) | 赤岩地区伝統的建造物群保存対策調査に着手(～17年度)                                  |
| 平成18年度(2006) | 『重要伝統的建造物群保存地区』選定(7月)  |
| 平成19年度(2007) | 修理修景事業開始<br>シルクカントリーin赤岩開催(以降、赤岩ふれあい感謝祭として開催)                |
| 平成27年度(2015) | 「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の構成資産として日本遺産に認定                              |
| 平成29年度(2017) | 赤岩ふれあい感謝祭と兼ねて重伝建選定10周年記念講演を開催                                |

## (3) 保存地区の保存と整備

### ●主な事業

- 平成19年度 修理事業3件  
修景事業1件  
防災事業1件(案内板3基)
- 平成28年度 修理事業2件  
修景事業1件
- 平成29年度 修理事業3件(4棟)
- 平成30年度 修理事業3件  
修景事業1件
- 令和元年度 修景事業1件

・修理修景事業の例

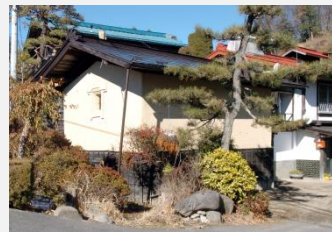


・防災事業(案内板)の例

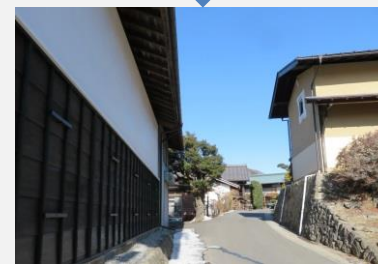


### ●回復する町並み

平成21年



平成29年



## (4) 保存地区の活用とまちづくり

### その1 住民の絆とぬくもりによるまちづくり

生活様式の多様化や高齢化により、住民同士の絆が稀薄となりつつあったが、重要伝統的建造物群保存地区選定により、ワークショップなどを開催し、食・蚕・祭・ガイドの各部会が創設され、住民一丸となって来街者へのおもてなしに取り組んできた。

特に、毎年9月に行われるふれあい感謝祭は、多くの来街者が訪れ、各方面の方の協力の下で住民も楽しみながら行われている。

### ・観光的な養蚕の復活



### ・ワークショップの開催



### ・ふれあい感謝祭



### ・まちなみガイド



# 中之条町六合赤岩(群馬県)

## その2 「かかあ」で結ばれる群馬の絹産業

古くから絹産業が盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女、織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代でも活躍する女性像の代名詞ともなっている。

県が中心となり、各市町村に点在する絹産業遺産を「かかあ天下」のストーリーで結び、日本遺産の認定を受け国内外への魅力発信や地域活性化に取り組んでいる。

町では修理修景事業に力を入れ、「お蚕さんの里整備事業」により、屋根の指定色への塗り替えや歴史的風致の向上が認められる軽微な修理事業に対し助成を行うと共に、無電柱化事業にも着手するなど積極的な事業展開を行っている。

## (5) 住民等の取組

### ●「ふれあい感謝祭」

保存地区で行われる年に一度の「ふれあい感謝祭」は、保存地区の魅力を知ってもらおうと、住民が総出で行う一大イベントとなっている。今では来街者にできる限りのおもてなしをし、町の活性化に繋げようとする住民の熱意が波及し、赤岩地区のみならず六合地区や県内からの個人や団体の協力を得て盛大に開催されている。

また、2年に一度開催されている芸術祭「中之条ビエンナーレ」にも協力し、作品の展示場の確保や製作・運営の協力を行い、期間中に訪れる大勢の来街者に好評を得ている。

これら住民の熱意と多くの人々に支えられ、保存地区は継承されている。



**養蚕業**  
繭から糸にする 製糸業

**織物業**  
糸を染め布に織り上げる

「かかあ天下」のストーリーで結び、日本遺産の認定を受け国内外への魅力発信や地域活性化に取り組んでいる。

町では修理修景事業に力を入れ、「お蚕さんの里整備事業」により、屋根の指定色への塗り替えや歴史的風致の向上が認められる軽微な修理事業に対し助成を行うと共に、無電柱化事業にも着手するなど積極的な事業展開を行っている。

### ●地域住民の声

・ これまでは古いばかりで価値もなく、人に見せられるようなものとは思えなかった大きな主屋や土蔵は、今や地域や町のみならず国の宝となった。これを保存し継承していく必要性や、環境美化に住民の意識も変化してきた。高齢化が進み今後の保存や活用に不安も多いが、住民同士が協力し合い、後継者育成や移住者の増加を目指し、活性化を進めていきたい。(保存会会長)